決算特別委員会の討論（要旨）

足立区議会自由民主党

討論者

くじらい 実 委員

令和2年度予算は「2020 その先の足立へ 合言葉は、安心・安全。」と名付け、東京2020大会後のレガシーや災害対策、福祉施策を重要課題とし、人生100年時代を支える施策を充実させる予算を編成したが、新型コロナウイルスのまん延により、感染症対策を優先する予算となった。

令和2年度決算では、経常収支比率が対前年度比5.7ポイント増の83.2％となり、平成25年度以来7年ぶりに適正水準とされる80％を超える結果となった。

感染症拡大による景気動向が、特別区民税等の歳入に与える影響は不透明であり、感染症対策等の支出増も予想される。加えて、さらなる少子・超高齢社会の進展に伴う社会保障費の増等、区財政を取り巻く環境は正に予断を許さない厳しい状況である。

このような状況の中、これまで取り組んできた行財政改革等をさらに進歩させ、コロナ禍の先を見据え、区民の負託に応える行財政運営を要望する。

また、今後ともさらに魅力あふれる足立区を築き上げることを期待するとともに、我が党委員が指摘した、若年者のワクチン接種率向上、脱炭素社会に向けた取り組み、想定浸水深の河川表示、生きがい奨励金終了のさらなる周知、窓口簡略化の検討、ながらスマホ条例の周知啓発、バンケット施設の誘致、学力向上対策、竹ノ塚駅新駅舎ホームドアの早期設置、綾瀬駅前ロータリー開発の推進、区内経済活性化対策、子どもの心の教育の推進、ワクチン検査パッケージの推進、効率的な予算執行への取り組み等、様々な提案及び要望事項を尊重し、実現に向けて努力されるよう強く要望する。

最後に、決算資料の誤植訂正は、あってはならないことであり、執行機関は全力で再発防止に努めるよう強く要望する。

足立区議会公明党

討論者

さの 智恵子 委員

令和2年度決算の歳入では、一般財源は3千701億円で、歳出は新型コロナウイルス感染症対策経費により大幅な増となった。

本決算は、実質収支比率が5.1％で、財政の硬直化を判断する経常収支比率は83.2％と、7年ぶりに80％を超える結果となった。

このような状況から、さらなる行政改革を推進し、誰も取り残さない区政を進めるべきと考える。

令和2年度は、PCR検査やワクチン接種体制等、新型コロナウイルス感染症に関連する事業を数多く進めた。

治安・防災対策においては、区の水防体制を再構築し、あだち防災マップ&ガイドの7年ぶりのリニューアルを行った。

子どもの貧困対策は、あだち未来応援基金の創設、外国にルーツを持つ子の居場所を兼ねた学習支援等を推進した。

エリアデザイン事業では、文教大学東京あだちキャンパスが開学、東京女子医科大学あだち医療センターが来年1月に開院する等、エリアデザインを着実に推進することを期待する。

このような事業は、我が党の要望が数多く反映され、区民の福祉・生活の向上につながり、高く評価する。今後は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策と、区内経済の回復に資する施策の推進を要望する。

最後に、本決算特別委員会で、我が党の委員から要望のあった、SDGsの推進、防災・減災対策、高齢者サービスの充実、区民の健康づくり対策、産後ケアの充実、中小企業支援、脱炭素社会の実現、動物との共生社会の実現、若年者支援、不登校対策、竹ノ塚鉄道高架化事業の推進、社会実験バスの推進、交通対策等、多くの提案・要望を重く受け止め、令和4年度予算に反映されるよう要望する。

日本共産党足立区議団

討論者

西の原 えみ子 委員

令和2年度予算の柱のトップに掲げたオリ・パラはすぐに延期になり、（仮称）江北健康づくりセンターも先送りした。区がコロナ対策に費やしたのはわずか28億円であり、ため込んだ基金は1千806億円となった。コロナのパンデミックに乗じて基金をため込む姿勢は認めるわけにはいかない。

経常収支比率が83.2％、特別区債残高が他区と比較して4番目に多いと危機感をあおるが、全国815の市区の中では経常収支比率は11位と高くなく、一人当たりの起債残高も10番目の少なさだ。それを最も財政力の強い23区で比較し危機感をあおり、区民サービスを削る口実にすることは許せない。

あだち30買い物券事業は、地域経済活性化及び循環が中心目的であったが、抽選となった紙券ではなく、余ったデジタル券の追加発行に走り、事業目的はゆがめられた。

生きがい奨励金の廃止を知った区民からは、一万筆超の復活を求める署名が区に届いており、この声に耳を傾けるべきである。

国民健康保険特別会計は、区民一人当たり前年度比3千186円値上げされ、協会けんぽ等と比べても2倍の負担である。コロナ禍で減収に苦しむ区民に保険料を値上げし負担を増やすあり方は、到底認められない。

第7期介護保険計画の最終年度にあたる令和2年度介護保険特別会計は、積立準備基金に11億8千万円積み立て、さらに11億円の剰余金を8期の積み立てに回した。23区で一番高い介護保険料徴収は不要だったことの表れであり、認められない。

後期高齢者医療特別会計は、約8割の6万7千人の保険料が値上げになり、コロナ禍で外出もままならなかった高齢者に追い打ちをかけるもので認められない。

区民のくらしの困難に心を寄せた区政運営が行われることを強く求める。

足立区議会立憲民主党

討論者

銀川 ゆい子 委員

令和2年度は東京2020大会に向けた機運醸成とレガシーづくりを力点とし、災害対策や人生100年時代の礎を強固にするための予算編成をした。

新型コロナウイルス対策では、PCR検査や相談体制を整備し、いち早く自宅療養セットを開始した。また、感染者の療養体制整備やワクチン接種対応を行い、人材や財源を精力的に投入する等、きめ細かい支援を行った。

災害対策では、すべての学校体育館にエアコンを設置、感染症を考慮した備蓄整備等、コロナ禍の避難所整備に取り組んだ。

区内事業者支援では、感染予防や経営・雇用を下支えする支援を実施した。

行財政事業では、4公金徴収猶予や減免等、区民に寄り添った対応を進めながらも、4公金の合計収納率は過去最高を達成した。

また、コロナ禍を乗り越える機運を高めるプロモーションを展開し、区を誇りに思う区民の割合も過去最高を記録した。

令和2年は新型コロナウイルス感染症対策が最優先となったが、健全な財政運営を行い、成果を出した区の努力を評価する。

一方、決算審議資料は、当初予算、予算現額と決算額が簡単に比較でき、詳細内容が理解できるようにすることを強く指摘する。資料の記載誤りも指摘した。十分に気を付けることを強く指摘する。

その他、都立中川公園の防災拠点化も、スピード感を持って地域の要望を聞きながら進めること。東京2020大会関連事業の詳細な記録をつけ、今年度と合わせ報告し、検証まで行うこと。タバコのマナー意識向上に取り組み、子どもに誇れるまちを目指すこと。同時に、プロモーションを盛り上げ、未来がひらけるまちづくりに取り組むことを要望する。

足立区議会議会改革を全力で推し進める会

討論者

土屋 のりこ 委員

フードセーフティネットへの公的支援策のあり方について、自己負担があることを前提としないことを求めた。足立区の食の支援は先進的であり、さらなる発展を願う。

教育の機会均等・公的支援のあり方について、子どもへの応援の姿勢を持つこと。

また、ホームレス対策では、あたたかなまなざしを持ち、「排除」というメッセージを発しないことを求めた。

ワクチン接種証明を用いた経済対策については、ワクチン接種が感染していないことを証明するわけではないことを踏まえ、差別と分断を生むことのないよう配慮し、経済緩和策と合わせて、いつでも誰でも受けられる検査体制の強化を求めた。

教育の無償化や困窮者支援において、先進各国と比較して遜色ないよう、行政手腕の発揮を求める。

一点、納得のいかない点が残った。高齢者施策推進室等の区民対応での違和感である。「区に背を向けられた」という区民感情が残った。「議員は区民の代表」という立場から、区民の声を尊重し、一般会計歳入歳出決算は不認定という結論に至った。

一方、高層マンションにおける災害協定締結の成果等、今後も各所管においては、区民から寄せられる声を事業改善に生かすことを求める。

介護保険特別会計は、3年後、保険料を値上げしないために、どう備えていくのか問われている。区民の負担軽減のためには、一般会計等から何らかの形で負担軽減に資する方策を検討せざるを得ないとの立場であり、それが解決していないので今決算は認定しかねる。

区には民間の論理ではなく、「おおやけ」として、公平・公正にその役割を発揮するよう求める。

令和3年決算特別委員会の映像は区議会ホームページでご覧いただけます。
右の2次元バーコードからスマートフォン・タブレットでも視聴できます。
※令和4年3月に開会予定の予算特別委員会の期間中、YouTube（ユーチューブ）でインターネット生中継を行いますのでぜひご覧ください。

※決算特別委員会委員の名簿と委員会の審査結果は8面に掲載しています。